

新型コロナウイルス感染症の発生について

市内において、1例目となる新型コロナウイルス感染症の患者を確認しましたので、北九州市感染症公表要領に基づきお知らせいたします。

- 1 概要** 令和2年2月29日(土)、市内B医療機関から北九州市保健所に新型コロナウイルス感染症の疑い患者について相談があり、北九州市保健環境研究所にて検査を実施したところ、令和2年3月1日(日)に陽性と判明した。
- 2 患者情報**
 - (1) 年齢、性別等 60歳代、男性、小倉南区在住
 - (2) 職業 タクシー運転手
 - (3) 基礎疾患 腎疾患(人工透析治療中)
 - (4) その他 海外渡航歴はない。
新型コロナウイルス感染症患者との明確な接触歴なし。
- 3 経過**
 - 2月19日(水)～ 咳あり。
 - 2月21日(金) 発熱(37.1℃)、咳あり。
 - 2月24日(月) 発熱(38.0℃)、咳あり。
 - 2月25日(火) 発熱(38℃台)、咳、呼吸困難あり。
市内A医療機関を受診し、入院となる。
 - 2月29日(土) 症状改善せず、市内B医療機関に転院。肺炎の指摘あり。
 - 3月1日(日) 本市保健環境研究所におけるPCR検査の結果、陽性が判明。
県内の感染症指定医療機関に転院し、入院となる。
- 4 現在の状況** 県内の感染症指定医療機関に入院中(状態は安定している。)
- 5 行政対応** 患者に対する健康調査(行動歴、接触歴を含む)を実施中。
- 6 患者行動歴**
 - ・海外渡航歴はない。
 - ・行動歴は、調査中。
- 7 濃厚接触者**
 - ・同居の家族なし。
 - ・その他の濃厚接触者については、調査中。
- 8 その他** 患者等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内にさせていただきます。ご理解の上、特段のご配慮をお願いいたします。
- 9 新型コロナウイルス感染症について**
別添参照

《新型コロナウイルス感染症について》

➤新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルス感染症については、2019年12月以降、新型コロナウイルス感染症の患者が複数報告され、中国国内で感染が拡大しており、2020年1月16日以降、日本においても患者の報告が増えています。国は、水際での対策を講じてきていますが、国内の複数地域で、感染経路が明らかではない患者が散発的に発生しており、一部地域には小規模の患者クラスター（集団）が把握されている状態になっています。

➤症状や治療

国内の事例では、発熱やのどの痛み、咳が長引くこと（1週間前後）が多く、強いだるさ（倦怠感）を訴える方が多いようです。感染から発症までの潜伏期間は1日から12.5日（多くは5日から6日）といわれています。

このウイルスに特に有効な抗ウイルス薬などはなく、対症療法を行います。

軽症で、治癒する方も多いですが、よる肺炎が重篤化した場合は、人工呼吸器など集中治療を要し、季節性インフルエンザよりも入院期間が長くなる事例が報告されています。高齢者や基礎疾患（糖尿病、心不全、呼吸器疾患など）を有する方では、重症化するリスクが高いと考えられています。

➤コロナウイルスとは

発熱や上気道症状を引き起こすウイルスで、人に感染するものは6種類あることが分かっています。そのうちの2つは、中東呼吸器症候群（MERS）や重症急性呼吸器症候群（SARS）などの、重症化傾向のある疾患の原因ウイルスが含まれています。残り4種類のウイルスは、一般の風邪の原因の10～15%（流行期は35%）の占めます。

➤感染経路

「飛沫感染」と「接触感染」の2つが考えられます。

（1）飛沫感染

感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他者がそのウイルスを口や鼻から吸い込んで感染します。

（2）接触感染

感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスが付きます。他者がその物を触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触って粘膜から感染します。

➤感染防止のポイント

- ・風邪や季節性インフルエンザ対策と同様に、「手洗い」などの通常の感染症対策やマスク着用などの「咳エチケット」に努めましょう。
- ・特に、基礎疾患がある方やご高齢の方は、できるだけ人混みの多い場所を避けてください。
- ・発熱等の風邪症状が見られるときは、学校や会社を休みましょう。